

## シンガポール・テクノロジーズ・エンジニアリング(STEG) 成長が期待されるスマートシティ事業に積極投資。地政学リスクの高まりによる防衛事業の需要拡大見通し。 シンガポール | 輸送支援サービス | 業績フォロー

### フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG STE:SP | REUTERS STEG.SI

- 2021/12期2H(7-12月)は売上高が前年同期比12.7%増、EBITが同13.1%増、純利益が同3.8%増。商業航空宇宙事業が好調だった。
- 米交通システム大手トランスコアの買収を発表。市場拡大が期待されるスマートシティ事業への投資を積極化させる。
- 地政学リスクの高まりによる世界的な安全保障戦略の見直しを背景に、同社の防衛・公共セキュリティ事業に注目が集まる。

#### What is the news?

2/24発表の2021/12通2H(7-12月)は、売上高が前年同期比12.7%増の40.42億SGD、EBIT(利払・税引前利益)が同13.1%増の3.19億SGD、純利益が同3.8%増の2.74億SGD。2021年12月末の受注残高は前期末比25.3%増の193億SGDと堅調に推移。半導体不足やM&A費用、政府支援給付金の減少等の影響を受けたが、主に商業航空宇宙事業の収益回復が貢献した。

セグメント別の業績は以下の通り。①商業航空宇宙事業は、売上高が前年同期比24.6%増の13.29億SGD、EBITが同13.1倍の79百万SGD。主に航空部品・システム部門の売上高が同50%増だったことが貢献。②都市化ソリューション・衛星通信事業は、売上高が同5.2%増の6.63億SGD、EBITが同71.1%減の15百万SGD。スマートシティ事業が好調だった一方、米国の交通システム大手トランスコアの買収費用や、政府からの支援給付金の減少等により減益となった。③防衛・公共セキュリティ事業は、売上高が同8.4%増の20.51億SGD、EBITが同0.3%増の2.24億SGD。特に海洋部門の売上高が同30%増加したことが寄与した。

#### How do we view this?

同社は高い成長が見込まれる都市化ソリューション・衛星通信事業への投資を積極化している。2021年10月には、米国で自動料金収受システム(ETC)などの開発・運営から、無線自動識別(RFID)といった最新技術のノウハウをもつ交通システム大手トランスコアの全株式を、2022年3月末までに約3,000億円で取得すると発表。さらにブラジルのリオデジャネイロでは、30万本の街灯をセンサーと通信網でつなぐ南米最大のプロジェクトを進める。同社はIT技術を用いて都市インフラ・施設運営の最適化を目指すスマートシティ事業において、世界市場が2021年の3,400億USDから、2026年には5,000億USDへ年平均8%の成長を見込んでおり、引き続き最先端ノウハウの活用によるサービス拡大が期待される。

また、足元ではロシアによるウクライナ侵攻を受け、世界的に安全保障戦略の見直しが進むなど、防衛への関心が高まっている。同社の防衛・公共セキュリティ事業の2021年4Q(10-12月)は、シンガポールや米国を中心に受注が堅調であり、米海軍の宿泊艦や、巡視船、砕氷船など様々な船舶修理および造船契約を獲得。地政学リスクの高まりを背景に同社の防衛機器・技術に一層注目が集まろう。

#### 業績推移

※参考レート 1SGD=91.03円

事業年度	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12F	2023/12F
売上高(百万SGD)	7,868	7,158	7,692	8,750	9,393
当期利益(百万SGD)	577	521	570	584	660
EPS(SGD)	0.18	0.17	0.18	0.19	0.21
PER(倍)	23.11	24.47	23.11	22.13	19.81
BPS(SGD)	0.71	0.74	0.77	0.81	0.87
PBR(倍)	5.86	5.62	5.40	5.14	4.78
配当(SGD)	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
配当利回り(%)	3.61	3.61	3.61	3.61	3.61

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(SGD) **0.15** (予想はBloomberg)  
 終値(SGD) **4.16** 2022/3/28

#### 会社概要

1967年にチャータード・インダストリーズ・オブ・シンガポールとして設立。シンガポール政府系投資会社のテマセク・ホールディングスが50%弱の持株比率となる筆頭株主。アジアでも有数の防衛・総合工学企業であり、航空宇宙、電子機器(エレクトロニクス)、着陸システム(ランドシステム)、海洋船舶を主要4事業セグメントとする。2019年に米航空部品のMRAシステムズのほか、米国の衛星ネットワーク管理ソリューションを提供するグローリンク、およびベルギーの通信衛星関連企業のニューテック・グループを買収した。

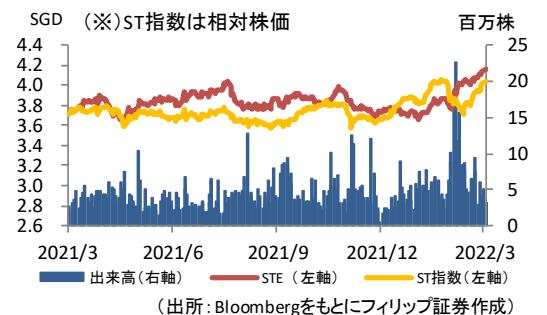
①商業航空宇宙事業は、主に「航空宇宙機の整備」、「航空部品およびシステム」、「航空資産管理」の3グループから成る。

②都市化ソリューション・衛星通信事業は、主に「都市化ソリューション」、「衛星通信」の2グループで構成される。

③防衛・公共セキュリティ事業は、主に「海洋船舶」、「地上輸送」、「デジタルシステムおよびサイバー」、「防衛航空宇宙」の4グループがある。

#### 企業データ(2022/3/29)

ベータ値	0.93
時価総額(百万SGD)	12,908
企業価値=EV(百万SGD)	14,463
3ヵ月平均売買代金(百万SGD)	22.4



#### 主要株主(2022/3)

1. テマセク・ホールディングス	49.86
2. CAPITAL GROUP COMPANIES INC	4.97
3. ブラックロック	1.80

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

#### アナリスト

山口 亮太  
 +81 3 3666 0707  
 ryota.yamaguchi@phillip.co.jp

#### 笹木 和弘

+81 3 3666 6980  
 kazuhito.sasaki@phillip.co.jp



【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

日本証券アナリスト協会検定会員 山口亮太

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

- ・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。